

6月 5-11日

歴代第二 30-31章

87番の歌と祈り

開会の言葉（1分）

神の言葉の宝

「仲間と集まることは私たちのためになる」（10分）長谷川 瑛一B

宝石を探し出す（10分）阿部 直生B

代二 30:20 エホバはヒゼキヤの願いを聞き入れ、民を許した。

エホバがヒゼキヤの言葉に耳を傾けたことから、どんなことを学べるか。

（塔研 18.09 6 ページ 14-15 節）謙遜さを示せる別の方法は、他の人の話によく耳を傾けることです。ヤコブ 1章 19節は「聞くことに速く……ある」よう勧めています。エホバはこの点で最高の手本です。（創 18:32。ヨシュ 10:14）出エジプト記 32章 11-14 節に記されているモーセとのやり取りに注目しましょう。（読む。）エホバはモーセの提案を必要としていませんでした。それでも、モーセの意見に進んで耳を傾けました。大抵の人は、判断を誤ったことのある人の意見をじっくり聞いて、そのとおりに行動しようとは思わないでしょう。しかしえホバは、信仰を抱く人の祈りを辛抱強く聞いてくださいます。15こう考えましょう。「エホバは謙遜に、アブラハム、ラケル、モーセ、ヨシュア、マノア、エリヤ、ヒゼキヤの言葉に耳を傾けられた。わたしたちの祈りにも耳を傾けてください。そうであれば、わたしも兄弟たちを敬い、意見に耳を傾け、良いアドバイスに従うべきではないだろうか。家族や会衆に、話を聞いてあげる必要のある人はいないだろうか。その人のために何ができるだろうか」。（創 30:6 その時ラケルは言った。「神は私のことを裁き、私の声を聞いてくださった。私に男の子を下さった」。それで彼女はその子をダン(意味/裁く者)と名付けた。裁 13:9 真の神はマノアの願いを聞き入れ、真の神の天使が再びマノアの妻の所にやって来た。野原に座っている時で、夫は一緒ではなかった。王一 17:22 エホバはエリヤの願いを聞き入れ、その子に命が戻り、その子は生き返った。代二 30:20 エホバはヒゼキヤの願いを聞き入れ、民を許した）

今週の範囲からエホバについて何を学べたか。宣教でどんな点を活用できるか。ほかにどんな宝石を見つけたか。 急使たちがイスラエルとユダで伝えた音信は「(30:9) 神のもとに戻るなら神は顔を背けたりされない」というものでしたが、実際には(12, 20, 27) 民の努力を遥かに超えて神が活動を支援してくださった。私たちも時に(10) 消極的な応対に会っても、エホバからの喜びの支援を受けながら宣教を続けていきたいです。

聖書朗読（4分）代二 31:11-21（教励 第5課）河野 正和B

野外奉仕に励む

最初の話し合い（2分）話し合いのサンプルの話題に沿って話す。石原 里佳 20 高橋 節子

再訪問（5分）話し合いのサンプルの話題に沿って話す。「いつまでも幸せに暮らせます」の冊子を提供し、レッスン 01から聖書レッスンを始める。（教励 第 18 課）小島 奈帆美 18 田中 弘子

話（5分）塔研 19.01 11-13 ページ 13-18 節 主題：集会でコメントすることによってエホバを賛美する。（教励 第 16 課）五味 統 16

クリスチヤンとして生活する

74 番の歌

「エホバの友になろう ちゅうかいのじゅんびをしよう」（5分）討議。動画を視聴する。もしいれば、子供たちに次の点を尋ねる。集会でコメントするためにどうやって準備できるか。当ててもらえなくともがっかりしなくていいのはどうしてか。滝 秀貞 B

組織の活動の進展（10分）「組織の活動の進展」の6月の動画を再生する。大谷 正 B

会衆の聖書研究（30分）暮セクション3の復習 田中 慶一 B 朗読：—

閉会の言葉（3分）

115 番の歌と祈り 佐藤 貴之 B

^(代二 30:1-31:21) ヒゼキヤはイスラエル全体とユダに知らせを送り、エフライムとマナセにも手紙を書き、エルサレムにあるエホバの家に来てイスラエルの神エホバのために過ぎ越しを執り行うように勧めた。2とはいえ、王と高官たちとエルサレムの会衆全体は、過ぎ越しを第2の月に執り行うこととした。3自分を神聖なものとした祭司の数が十分ではなく、民もエルサレムに集まつていなかつたため、通常の時に執り行うことができなかつたのである。4この決定は、王にとつても会衆全体にとつても、正しいと思えるものだつた。5それで彼らは、ベエル・シェバからダンまで、イスラエル中に知らせを出すことにした。エルサレムに来てイスラエルの神エホバのために過ぎ越しを執り行うようにとの知らせだつた。律法通りに集団として執り行うことがなされていなかつたからである。6急使(*)たちが王と高官たちからの手紙を持って、イスラエル全体とユダの至る所に行き、王に命じられた通り、こう言った。「イスラエルの人たち、アブラハムとイサクとイスラエルの神エホバのもとに戻ってください。そうすれば、アッシリヤの王たちから逃れて残つた皆さんのもとに神は戻ってきてくださるでしょう。7皆さんの父祖や兄弟たちのようになってはいけません。彼らは父祖たちの神エホバに不忠実なことをしました。そのため、神は災難をもたらし、彼らについて見聞きした人たちが恐怖を抱くようにしました。皆さんも見ている通りです。8父祖たちのように強情になってはいけません。エホバに従い、神が永遠に

神の言葉の宝

仲間と集まることは私たちのためになる

ヒゼキヤは、エルサレムで大々的に過ぎ越しを行うことを計画した。 (代二 30:1。洞-2 606)

反対にもかかわらず大勢の人が出席した。 (代二 30:10, 11, 13。洞-2 606)

民は大きな喜びに包まれ、エホバに仕えるための力を得た。 (代二 30:25-31:1。洞-2 607 ページ 1-2 節)



考えてみよう：「たとえ努力が求められるとしても、いかに集まる集会や大会に出席することは、どのように自分のためになってきただろうか」。

^ (代二 30:1) ヒゼキヤはイスラエル全体とユダに知らせを送り、エフライムとマナセにも手紙を書き、エルサレムにあるエホバの家に来てイスラエルの神エホバのために過ぎ越しを執り行うように勧めた。

^ (代二 30:10, 11) 急使(d*走者)たちはエフライムとマナセの土地を町から町へと巡り、ゼブルンにまで行ったが、人々から笑いものにされ、あざけられた。 11 しかし、アシェルとマナセとゼブルンのある人たちは謙遜になり、エルサレムに来た。

^ (代二 30:13) 第2の月、無酵母パンの祭りを行おうとして、大勢の民がエルサレムに集まった。非常に大きな会衆になった。

^ (代二 30:25-31:1) ユダの会衆全体、祭司、レビ族、イスラエルから来た会衆全体、イスラエルの土地から来た外国人居住者、ユダに住んでいる外国人居住者は喜び続けた。 26 エルサレムは大きな喜びに包まれた。イスラエルの王ダビデの子ソロモンの時代以降、エルサレムでこのようなことは行われていなかつたからである。 27 レビ族の祭司たちは立ち上がって、民のために祝福を願い求めた。神はその声を聞き、その祈りは神の聖なる住まいである天に届いた。

31 こうしたことが終わると、そこにいたイスラエル人は皆ユダの町々に出ていった。ユダとベニヤミンの全土、またエフライムとマナセで、聖柱を打ち碎き、聖木を切り倒し、高い場所と祭壇を取り壊した。それらを完全に破壊し、その後、イスラエル人は皆、自分の町、自分の所有地に帰った。